

2016 WORLD ROWING SENIOR, UNDER23 & U19 CHAMPIONSHIPS REPORT 10 (8/24)

大会4日目も各クルー、カテゴリー別に朝食をとりました。

昨日に引き続き素晴らしいコンディションになりました。この日からU19のレースも始まります。シニア・U23・U19併せて8種目のレースが行われます。

10:20 JW4x 予選

いよいよU19日本代表の出番になった。先陣を切るのはJW4xの4人。スタートから歯切れのよいテンポでギリシャ、ロシア、オーストラリアについていき、500mの通過は3位オーストラリアと並ぶようにして4位で通過。1位ギリシャとの差も1.91秒差と十分にまずまずのポジションで序盤を終える。第2クォーターに入っても大きく抜け出す国はなく日本もついていけるが、1000mが近づくにつれじりじりと差が開き始めた。1000mの通過は変わらず4位、1位ギリシャとは3.55秒差となるが、まだまだチャンスはある。第3クォーターに入ると各国の差がそれぞれ開き始める。1500mの通過は4位。1位ギリシャとの差は7.13秒差となった。ラストクォーター、各国が一斉にスパートに入中、日本もしっかりスパートが効いている。3位に転落したロシアとの差をみるみる縮めていく。もう少し距離があれば…。と思うような差のところでゴー



2016 WORLD ROWING CHAMPIONSHIP		
STANDING 1000M		
GRE	GREECE	3:20.06
RUS	RUSSIAN FEDERATION	+1.14
AUS	AUSTRALIA	+2.75
JPN	JAPAN	+3.55
EST	ESTONIA	+9.20

ROTTERDAM, NETHERLANDS

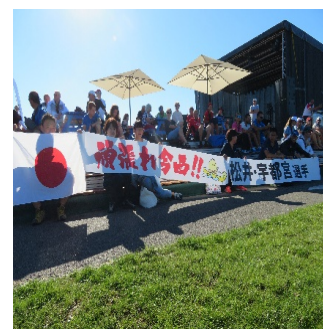
明らか体格差もの
ともせず勝負を挑む
日本→

1000m地点、1位ギリシャと
3.55秒差の4位で通過！



最後の力を振り絞る日本クルー

JW4x 左からS松井選手（今治西高校）、3河原選手（若狭東高校）、2宇都宮選手（今治西高校）、B四方選手（朱雀高校）



11:00 JM4x 予選

続いて登場するのはJM4xクルー、4位までが準々決勝に進むこのレース、スタートから積極的に攻めていき500mの通過はアメリカ、ニュージーランド、スロベニアに次いで4位。5位クロアチアには1.5秒差をつけている。第2クォーターでも日本は果敢なドライブで通過ラインの4位をキープする。1000mの通過は1位アメリカとは8.76秒差に開くものの5位クロアチアとの差を1.92秒差に広げ4位を死守。しかしここからがオープンウエイトで戦う怖さが出る展開となった。1500m手前でクロアチアが一気にギアを上げ並ばれたかと思ったら僅かにリードを許し1500mの通過は5位となってしまった。ラストクォーター、日本も必死に追い上げるも勢いづいたクロアチアに追いつくことはできず5位でゴール。惜しくも明日の敗者復活に回ることになったが、手ごたえを感じることでできるレースを展開してくれた。



STANDING 1000M		
USA	UNITED STATES OF AMERICA	2:56.66
NZL	NEW ZEALAND	+2.41
SLO	SLOVENIA	+5.33
JPN	JAPAN	+6.84
CRO	CROATIA	+8.76

ROTTERDAM, NETHERLANDS

1000m地点は準々決勝進出ラインの4位で通過



1500m地点を通過。右から2番目が日本



最後まで果敢に攻めた日本

左からJW4x 左からS吉田選手（加茂高校）、3江島選手（青井高校）、2石塚選手（田村高校）、B河畑選手（美方高校）

11:05 JM2x 予選

立て続けに日本が出場するレースが続く。このレースも4位までが準々決勝に進める。スタートからスペイン、ギリシャが前に出るが日本もイタリア、ラトビアとほぼ横一線で前を追う。500mに通過は5位ながらも1位スペインとの差は2.83秒、4位ラトビアとの差は100分の1秒としっかり食いついている。第2クォーターに入っても日本はハイペースを維持し、上位3か国との差がほぼ開かない形でラトビアをかわし4位に浮上して1000mを通過。しかし第3クォーターに入ると一度後退したはずのラトビアが再びペースを上げ日本にじりじりと迫る。一度は3秒以上開いた差が1500m通過時には2秒余りに縮まり第4クォーターに突入。各国が一斉に上げる中、日本もしっかりついていけるだけのスパートを入れているが、ラトビアが見事なスパートを見せ日本を追い詰めていく。ほぼ同時にゴールするも0.77秒かわされ5位が確定。明日の敗者復活に回ることはなかったが、戦える手ごたえをつかんだ。



1000m手前、各国と争う日本

STANDING 1000M			JM2X
1	ESP	RICO CASTRO/RODRIGUEZ	3:14.00
2	GRE	PSARROS/GRAMMENIATIS	+1.72
3	GBR	HARRIS/LAWTON	+2.81
4	JPN	SETO/TOYAMA	+3.09
5	LAT	CELMINS/TIMBORS	+6.69
6	KOR	LEE/LEE	+8.35

ROTTERDAM, NETHERLANDS

1000mを準々決勝進出ラインの4位で通過



ラストスパートで刺されるも堂々としたレースを演じた日本

左からJM2x 左からS遠山選手（伏見工業高校）、B瀬戸選手（日本大学）

12:25 JW2x 予選

6か国中1位の身が準決勝に進めるこのレース、スタートからトップ争いには加われないものの、次のグループにはしっかりついて行けている。6位で500mを通過するものの3位カナダまでは3.47秒差である。第2クォーター、日本も懸命についていき、前を行くラトビアをかわし5位に浮上する。第3クォーターもでもラトビアとの差を空けるがラストクォーターに入るところでもラトビアがギアチェンジ。ゴール手前で猛然と追い込まれ、最終的には僅かにかわされ0.87秒差で6位となった。体格差をものともせず積極果敢に攻め続ける良いレースであった。



いざ出艇!!



1800m地点、ラトビア（奥）から必死に逃げる日本



必死にラストスパートを入れる日本
左からs新田選手（美方高校）、國元選手（唐津商業高校、

13:05 JW1x 予選

1位のみが準決勝に進むことができる。スタートから飛ばすオーストラリア、ドイツを追うようにして500mを3位で通過。1位オーストラリアとは3.45秒差。気温が上昇していく厳しい条件の中レースは進んでいくが、第2クォーターで1位争いからは遅れフランス、クロアチアにかわされ5位に順位を落とした。レース後半も特に大きく動くことはなくそのまま5位でゴール。次の敗者復活に全てをかけることになった。

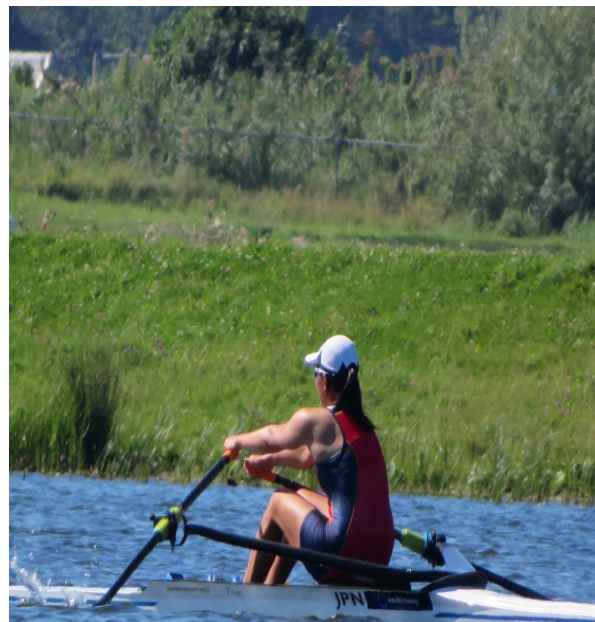


2016 WORLD ROWING CHAMPIONSHIPS		
STANDING 1500M		JW1X
1	GER Alicia BOHN	5:47.37
2	AUS Harriet HUDSON	+4.23
3	FRA Margaux BAILLEUL	+9.19
4	CRO Teuta Lea STOJAKOVIC	+12.13
5	JPN Chisa DAIMON	+23.27
6	DEN Simone SOERENSEN	+33.62

ROTTERDAM, NETHERLANDS

KNRB KNRB KNRB

1500mの通過が5位であることがアナウンスされる。



懸命に前を追う日本



敗者復活に期待がかかる日本：大門選手（日田林工高校）

16:35 LM1x 準決勝A/B

日本代表選手のリーダー池田選手（トヨタ紡織）の準決勝A/B進出をかけた戦い。3位までが準決勝A/Bに進出できる。スタートからインレーンのスロバキア、スロベニアが飛び出し地元オランダ、日本、タイが追う展開となった。500mの通過は1位スロベニアから2.87秒差、3位オランダからは1.67秒差の4位。第2クォーターに入ると上位3か国と日本の差が少しずつ開き始める。1000mの通過は3位オランダとの差が3.95秒差に開いてしまう。これ以上は何があっても離されたくないタイミングで日本がギアを上げる。ここから猛烈な追い上げが始まった。1500mまでにオランダとの差を1.91秒に詰めると、満を持してスパート！地元の大声援を受け力を得ているオランダの望みを断ち切る鮮やかなスパートが決まりオランダを置き去りにすると上位2か国との差もみるみる縮めていった。ゴールまでには追い付かなかったものの、世界を相手に後半勝負できる地力を見せつけ、今年のワールドカップ2で競り負けた因縁のオランダに見事世界選手権の舞台でリベンジを果たした。



スタート地点に艇をつけ集中する池田選手（トヨタ紡



スタートの信号で各国一斉にスタートをきる。手前から2番目が日本



見事なラストスパートでゴールに驀進する日本：池田選手（トヨタ紡織）
後半の1000mを3分27秒49でカバーし6分59秒08でゴール。
準決勝A/B進出を決めた

17:05 BLM1x 準決勝C/D

スタートから積極的に攻めてレースの主導権を握った。500mの通過は1位で通過。第2クォーターでも日本の勢いはどどまることを知らずに首位を走り続ける。しかし2〜4位もしっかりとついてきていて注意が必要だ。第3クォーターになるとデンマークが日本を抜いて1位に躍り出る。またアメリカとモルドバもジワリと近づいてくる。ラストクォーター勝負になることが容易に想像できた。そしてラストクォーターを迎えると、各国が一斉にスパート。日本はこの流れにうまく乗れずモルドバ、アメリカに僅かにかわされ4位でゴールすることになった。
※この後艇計量不足でモルドバが失格となり日本の13〜18位決定戦への進出が決まった。



↑スタート一本目、一番手前が日本



序盤から主導権を握る日本（手前）



必死にラストスパートをかける日本：古米選手（日本大学）

17:15 LW1x 準決勝C/D

スタートから前に出ようとする各国から少し遅れるようにして500mを5位で通過。第2クォーターに入ると日本が1本1本をしっかり伸ばしてポジションを上げて行く。1000mの通過は中国、チェコに次いで3位。第3クォーターもしっかり漕ぎきり4位タイを突き放し決勝Cへの道を切り開いていく。ラストクォーターに必死にタイが追い上げてくるも、それまでに作ったリードが利いていてゴール。決勝C(13～18位決定)に進むことになった。



↑500mは5位で通過



第2クォーターに果敢に攻める日本（手前）



ゴール前、力を振り絞る日本：
上野選手（明治
安田生命）

トレーニングの様子（8/24）



昨日準決勝A/B進出を決めたLM2-左からB小林選手（戸田中央総合病院RC）、S奈良選手（新日鐵住金）



BLW2x 左からB角谷選手(立教大学)、S成瀬選手（明治大学）



BLM2- 左からB嶋田選手、S林選手（共に日本大学）



BLM4- 左からB志賀選手（日本大学）、2福井選手（東レ滋賀）、3荒川選手（一橋大学）、S佐藤選手（日本大学）



BLW1x 高島選手（明治大学）



BLM2x 左からB武田選手（関西電力美浜）、S古田選手（明治大学）

U19のレースも始まり大選手団もフル稼働しております。明日はU23のほとんどのクルーが最後のレースになるほか、重要なレースが目白押しになります。それぞれが全力で挑むことにより生まれる好循環が選手団内に生まれてきておりますので、引き続きご声援よろしくお願い致します。



選手のおにぎりを作る中村ドクター（右）と野村トレーナー

また現地在住スタッフの井上さんも作ってくださっております。

感謝！